

# 10 月度「京都学ラウンジ ミニ講座」(開催報告)

平成 30 年 10 月 25 日  
京 都 学 ・ 歴 彩 館  
075-723-4835

京都学・歴彩館では、京都について学ぶ楽しみを広げる目的で毎週木曜日に「京都学ラウンジ ミニ講座」を開催しております。この度、10月4日から10月25日にかけて4回開催しましたので、下記のとおり報告します。

## 記

- 日 時 平成30年 10月4日・11日・18日・25日  
いずれも木曜日 13:30~14:00
- 会 場 京都府立京都学・歴彩館 京都学ラウンジ
- 参加者数 35名(4日)、38名(11日)、41名(18日) 36名(25日)  
合計 150 名
- 内 容 「東寺百合文書よもやま話」(全4回)
  - 第1話 百合の箱の話 (京都学・歴彩館資料課 松田 万智子)
  - 第2話 開閉厳禁!不開門(あかすのもん)の話 (京都学・歴彩館資料課 鍛治 利雄)
  - 第3話 ペーパークラフトの話~桐箱をつくってみよう!~  
(京都学・歴彩館資料課 伊藤 実矩)
  - 第4話 むまく■の話 (京都学・歴彩館資料課 大塚 活美)

## ■ 講座の様子

10 月度のミニ講座は、展示室で開催されている「東寺百合文書展」に合わせて、当館資料課職員が東寺百合文書にまつわる“よもやま話”をお話した。くずし字が読めなければ楽しめないと思われがちな古文書。もちろん読めたら、古文書の楽しみは広がる。しかし文書の楽しみ方はそれだけではない。前田綱紀が東寺に寄進した 100 個の箱。現在に伝わるのは 94 箱。残り 6 箱の謎にせまった第 1 話。今も残る東寺の開かずの門。何故、開かなくなってしまったのか。文書や関連する資料からわかりやすく説明した第 2 話。子どもから大人まで皆で楽しもう東寺百合文書、ペーパークラフトを作成した第 3 話。そして最終第 4 話では文書の中の一文字をめぐる頭を捻る職員や研究者の姿をお話いただいた。4 回の講座で参加者には、くずし字が読めなくても楽しめる古文書の世界を様々なアプローチから堪能いただいた。当館が所蔵する古文書を広く知っていただく機会を持てたこと、そして所蔵資料発信のため様々なコンテンツを準備する職員の仕事を垣間見ていただく機会となり、大変有意義な講座となった。

第 4 話終了後、参加者を対象に特定資料収蔵庫を見学するバックヤードツアーを開催した。

